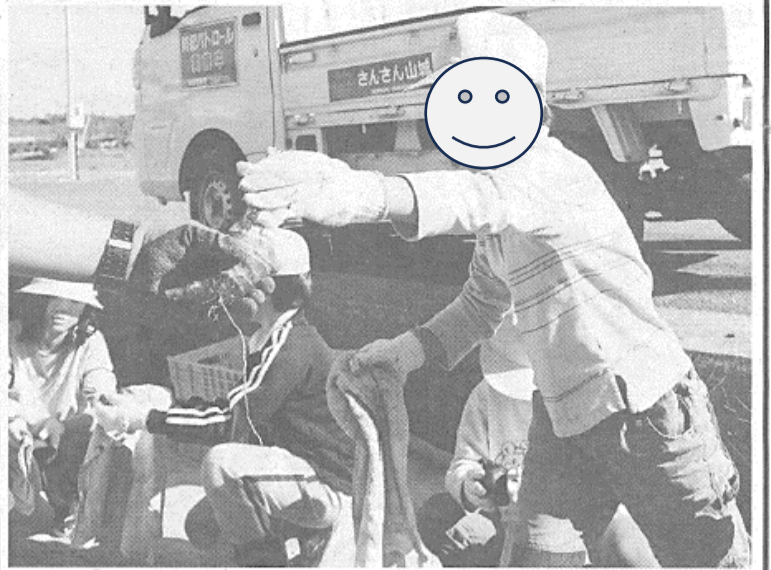


数多く小さいもを付ける株を持ち上げた [] くん 充実の実にふれてテンション上がるよね きれいに拭っていけばくっきりと縞模様とえびの形が浮かんだ



薪小学校3年生が劇アツ体験

京田辺 特産えびいもに親しみ

農福連携 **さんさん山城の手ほどき**

京田辺市立薪小学校(辻村登喜男校長)の3年生25人は8日、同市東にあるえびいも畑を訪れ、収穫と出荷準備の体験に心を躍らせた。

同区内の木津川堤に近い畑を管理するのは、京田辺市興戸小毛詰の障害者就労支援事業所で農福連携センターの「さんさん山城」。

高級食材として注目を高める地元特産えびいもの収穫は今シーズンの佳境を迎える。春先に株を植え、順調に生育すれば1つの種いもから6つほど子のいもが実るといい、今冬も京の家庭では欠かせない地の野菜は学校給食のメニューにもよく登場する。

た出荷も盛ん。京都市内の名立たる料亭などの引き合いもよく、茎部分の瑞穂(ずいき)は棚倉孫神社の神興用に奉納を続けている。

この日早朝、バスで畝まで到着した児童を利用者・職員約10人が

「じゃがいもよりいっぱい出て来て楽しい。えびみたくに曲がって

温かく歓迎した。同校では3年の総合的な学習で地元特産を習い、児童104人はえびいものほか、玉露・田辺なす・一休納豆から好きなものを選んで収穫など実体験も満喫する。

事前質問も届けた児童たちは土の中のえびいもの構造も図解してもらい、大胆に顔をのぞかせた実りを株ごとこそっと持ち上げて笑顔をおふれさせた。傷みや変色が起きないように水を使わないと、丁寧に布で一つひとつ泥を拭いた。

児童たちはきれいに縞模様が浮かび上がったえびいもの姿に見惚れ、歓声も。

「10個ぐらい付いていた」と両手で株を取り上げた [] くんは「じゃがいもよりいっぱい出て来て楽しい。えびみたくに曲がって

「10個ぐらい付いていた」と両手で株を取り上げた [] くんは

「じゃがいもよりいっぱい出て来て楽しい。えびみたくに曲がって

「さらさらでたくさん付いていた」と秋の実りに手を伸ばし合った。

長期熟成梅酒
山城
城陽酒造(株)
0774-52-0003